

土浦市民憲章

昭和50年12月23日制定

- 1. 互いに信じ 助けあう
あたたかいところをそだてましょう
- 1. からだをきたえ 仕事にはげみ
あかい家庭を ぎずきましよう
- 1. 自然を愛し 水とみどりの
きれいなまちを つくりましよう
- 1. 知性を高め 教養をつちかい
文化のみりを ひろげましよう
- 1. 伝統をふまえ 未来をみつめる
若い力を のぼしましよう

一中地区市民委員会

亀城

発行・編集者：一中地区市民委員会・文化広報部会 発行日：平成28年10月18日（火）
 事務局：一中地区公民館内 TEL：029-821-0104
 世帯数 10,417戸 人口 20,461人（平成28年9月1日現在住民基本台帳による）



生まれ変わった 土浦小学校

一中地区市民委員会
委員 黒澤 明良

土浦小学校は、明治6年に開校した市内で最も古い学校です。周辺には土浦城跡地（亀城公園）、まちかど蔵、博物館などがあり、四度目の校舎設立に当たっては、よりよい施設整備はもちろんのこと、地域の景観との調和、これまでの歴史・伝統などを含めて総合的に検討し、改築されました。

明治四十四年に建てられた土浦尋常小学校の校舎は本格的な木造西洋建築であり、他に先駆けた西洋建築として当時話題になったそうです。三代目の校舎ができるまでの五十四年間使用されました（写真）。

四代目の現在の校舎は、三代目と同じに鉄筋三階建ではあるものの、勾配屋根を採用するなど和のイメージのあるものになっています。亀城公園との調和についても十分配慮し、校舎の壁面には木の縦格子をモチーフにしたルーバーがつけられています。さらに、西側の外壁は城壁、木造小屋組の正門が大手門、堀には鉄砲窓というように土浦城を連想させるつくりになっています。二代目の校舎のイメージも残っています。



校舎内は木をふんだんに使っており、

三階吹き抜けの中央ホール、音楽室とつながる多目的室、コンピュータ室とつながる図書室などもこれからの教育への対応を考えたもので、素晴らしい施設・設備です。

今後は、景観との融合だけでなく、地域の伝統を生かし、「たまぎの心」の伝統を生かした教育、地域に根ざした教育を更に推進していきます。地域の皆様の温かいご支援をよろしくお願いいたします。

（筆者は現在土浦小学校の校長です）



学校の強力な助っ人 「おやじの会」

一中地区市民委員会
委員 廣原 高志

土浦第二小学校の学校経営のドライバーは、「今日が楽しく 明日が待たれる 学校づくり」です。つまり、子供達にとって学校生活が楽しく、毎日ワクワクして登校して行くような学校づくりが目標です。いつも子供達の笑顔があふれているような学校を目指しています。

本校には『二小おやじの会』という全くのボランティア精神が集まったお父ちゃん（おやじ）の集団があります。現在二十数名の有志からなる会ですが、これがまたとても活動的かつサービス心旺盛な会です。会のモットーは、「お父さん達自身が楽しむこと」、「徹底的に子供と楽しむこと」です。お父さん同士で交流を深めるとともに、子供達の笑顔を引き出すことを一番のねらいにしています。主な活動としては「流しそつめん」「バザーでのフチ縁田」「節分（もちつき）イベント」などですが、その他学校のためになる奉仕活

動にも積極的に関わってくれていました。今年五月には、何年も放置されていたサビだらけのサッカーゴールのサビ落としとペンキ塗りをしてくれました。この日早朝から集まったおやじ達は、電動やすりでサビ落とし↓紙やすりで表面磨き↓下地にさび止め塗装↓仕上げの白ペンキ塗りとパワー全開で取り組み、いつしか手伝いに加わった少年団の子供達とともに、二台のサッカーゴールを新品のように仕上げました。少年団の子供達の満面の笑みは言うまでもありません。全員の歓声が校庭に響き渡りました。

夏休み終盤に実施されたPTA奉仕作業の日には、恒例の「流しそつめん大会」が実施されました。事前に切っておいた太さ直径十三〜十四センチ、長さ十二メートルにもなる立派な竹を組んだ本格的な流しそつめんです。



参加者は自分で竹を切って容器を作り、次々と流れてくるそつめんを懸命に箸で取り、満腹になるまでその味を味わいました。子供達にとっても夏休みの楽しい思い出となったはずですよ。

『二小おやじの会』会長の梅原博さんは、「喜んでくれる子供達の笑顔が何よりも私たちのパワーの源です。」と言っています。学校にとって、本当にありがたい強力な助っ人です。

（筆者は現在土浦第二小学校の校長です）



一中地区市民委員会
副委員長として
一中地区市民委員会
副委員長 松山 充康

私たちは、町内でスポーツ、レクリエーション、趣味同好会、美化作業、各種ボランティアなどをおし町民同志の融和、助け合いそして心のゆとりのある生活をめざし日々活動を展開しています。町内では小世帯のため、より密接な人間関係作りには適しますが、より大きな規模での活動ができません。

一中地区市民委員会では、土浦市民憲章にのっとり各町内ではできないより広域な規模での活動をより活性化させていくことが大事かと考えております。現代社会のめまぐるしい環境の変化に対応すべく各専門部会が効率よく活動できればより良いことと思っております。町内より選ばれた役員、専門部員の皆様とともに明るい、住みやすい安心安全な町づくりのため行動を共にしていきたいでしょう。また老若男女が共に趣味、娯楽、社会福祉などをおし、生きがい高め、充実した人生が送れる手助けができれば幸いです。

市民委員会 専門部の活動

青少年育成部の活動

チャレンジクラブの事業計画について

部長 根本 和夫

今年度の事業計画のご報告をする前に、チャレンジクラブについて、



説明をさせて頂きたいと思えます。構成は、一中地区内の小学校に通う、選抜をされた四年生から六年生の男女三十名の子供達と、公民館指導

員の先生を中心に、育成部の役員、並びに各町内の青少年育成部員の方々となっております。

主な目的は、土曜日をメインに、一年間の中で十回行われる学習や色々な体験を通して、リーダー的な役割を担える人材の育成にあります。

また、チャレンジクラブには、三つの約束があります。①いつも元気に挨拶します。②どんなときでも友達を大切にします。③どんなときにも思い切った挑戦します。この三つの約束、意識したとりにくみにより、思いやりのある、そして豊かな感性を持ち合わせた人に、育ってもらふことにあります。

これまでに四つの行事を実施していますが、五月は、開校式とプランターづくりを行いました。開校式では、メンバーそれぞれが、自己紹介と、一年間のチャレンジ活動への抱負が述べられました。その後、マリー

ゴールドやサルビヤを、ひとり一人がプランターに植え、新しい年度がスタートしました。その花は、現在も公民館に飾られ、訪れる



人々の目を楽しませています。

第二回目となる活動は、バスを利用して六月に行われました。海の不思議を学ぼうをテーマに、大洗わくわく科学館へ。その中では、風が波に与える影響や、波の伝わり方のメカニズムなど、海上での不思議。また、海底で起こるさまざまな現象など、これまであまり知らなかった世界を、覗くことが出来ました。館外には、広々とした敷地があり、汐のかおりいっぱいの中で、思いっきり遊びました。バスで少し移動した酒沼自然公園で、班ごとに昼食。このころになると、班としての意識も徐々に出てきたように思えました。

七月には、穴塚地区において自然環境調査を行いました。調査は、土浦市環境保全課職員の方や、平成理研の皆様の専門的なサポートを受け、田んぼ周辺の水路や、あぜ道を中心に行いました。目的は、指定された昆虫や植物、蛙など水辺の生物の生息数によって、自然環境が守られているか、その判断材料とするためです。班ごとに調査エリアを分け、捕獲した生き物をルートごとに記入、環境マップを作成しました。二時間の調査の後、公民館に戻り、班ごとに環境マップへ捕まえた生き物の絵を貼り、それらをもとに、全員で発表を行いました。

子供達もこの活動を通して、自然環境の大切さを、楽しみながら学ぶことが出来たものと思います。

八月は、わくわく・どきどき力又ー体験を、真夏の日差しのもと、霞ヶ浦ヨットハーバーにある、ラクスマリナーで行いました。

このとりくみは、霞ヶ浦を身近に感じることで、霞ヶ浦の環境問題に関心をもってもらうことや、チーム

ワークの大切さを体験の中で学ぶため、実施をしました。

ラクスマリナーの責任者の方から、安全への注意や技術指導を受け、二班に分かれ、それぞれがカヌーとドラゴンボートに乗り、湖面を渡る風をいっばいに受け、水上スポーツを満喫しました。レスキューボートでの霞ヶ浦クルーズで一息を入れたあと、大勢の中で力ヌーによる競争が行われ、親子で有意義なひとときを過ごしました。

なお、今後の活動計画については、九月、古典芸能の魅力に触れようと題し、能楽体験を亀城プラザで。十月、バス利用によるハイキングと野外炊飯を、雪入ふれあいの里および中央青年の家で行います。十一月、一中地区公民館まつりに参加し、出店のお手伝いをしながら、ボランティア活動への理解を深めるとりくみ。十二月、科学実験による光のオプジェづくり挑戦。一月、JAXAとエキスポセンターを見学、日本の宇宙技術のすばらしさを体感し、宇宙への夢をはぐくむ活動。そして二月、キー作りでお別れ会と閉校式で、十の事業が終了となります。

これからも、子供達のチャレンジはまだまだ続きます。地域の皆様温かい応援を、宜しくお願い致します。

文化広報部の活動

文化広報部長に就任して



部長 新井 幸男

この度、前部長 大槻正義氏の後任として五月から新部長として就任させていただきます。

文化広報部の最大の活動は、広報

紙「亀城」の年二回（三月・十月）の発行です。

その他の今年度の活動として
一、公民館まつりへの協力参加（記録写真撮影）

二、協働まちづくりシンポジウムポスターセッション時のポスター作成
三、まち歩き交流ウォーキング等があります。

私は、広報紙「亀城」の編集委員として数年携わってきましたが、実は市民の皆さんに意外と読まれていないということが実態なのです。投稿して頂いている方達にとっても発行している文化広報部としても誠に残念なことです。

本来、広報紙とは如何に多くの皆さまに身近な存在として親しまれ読まれることでありますが、私も正直なところ文化広報部員になるまで広報紙「亀城」の存在すら気付いておりませんでした。

そこで、私が先ず一番に行いたいことは、伝統ある広報紙「亀城」の編集に一工夫し、親しまれ読まれる広報紙にしたいということです。

就任早々の六月に編集委員会議を行い、委員の合意により先ず、如何に目にして手に取ってもらえるものにするか、そして読んでもらえるものにするか、本来あるべき姿の広報紙の原点に戻って改善策を次のように致しました。

- ・文字を大きく読み易くする。
- ・字体を見やすいものにする。
- ・見出し、写真、カットをこれまで以上に工夫する。等

これからも地区住民の皆さまに親しまれる広報紙づくりに編集委員一同努めてまいりますので、どうぞよろしくお願い致します。

安全部の活動

本年度の安全部の事業計画

部長 吉村 勇一

①救急救命（AED）講習（10月30日予定）

今年も土浦消防署の方々に御指導をいただき実施の予定であります。

去年は十六名の参加者により真剣な受講をし、有意義な体験をさせていただきました。今年も一人でも多くの皆様方のご参加・ご協力のほどを宜しくお願いいたします。

②公民館まつりへの協力参加（十一月予定）

一中地区公民館まつりは毎年各部会合同で行われる市民参加の楽しいイベントで、安全部は当日の駐車場や駐輪場の整理に協力して、ご来場者の安全にお役立いたしたく、多くの皆様方のご来場をお待ちいたしております。

③視察研修（十二月予定）

去年は東京警視庁、東京地方裁判所での研修を実施いたしました。

とくに東京地方裁判所におきましては、傍聴席にて窃盗事件と薬物使用事件の二つの案件を傍聴する貴重な体験をさせていただきました。

今年も有意義な研修を計画実施する予定です。多数の御参加を宜しくお願いいたします。

④防犯運動のぼり作成配布（三月予定）

こちらでも毎年行っており、防犯のぼり旗を百本作成し、各町にお配りして、少しでも犯罪の抑止につながればと願っております。

以上が安全部からの事業計画および報告です。
皆様方のご協力・ご参加を宜しくお願い申し上げます。

ヨーガ同好会

立谷 正男

ヨーガ同好会は発足から十年が経ちます。現在、会員約十五名、毎週日曜日の午前十時から十二時まで牛久市在住の佐藤スミ恵先生の指導を受けてヨーガを楽しんでいます。いつも広い集会所を利用して頂き、公民館の皆さまには大変お世話になり厚く御礼を申し上げます。

佐藤先生はヨーガ研鑽二十五年のベテランで、身体を柔らかくすることが血流を改善し、老化防止に有効と無理のないポーズで呼吸法や各部の筋力強化を指導されています。第二の脳と言われて話題になっている腸の活性化のための捻りやマッサージなども十分取り入れていきます。あまりハードなポーズを求めず、あまり心もリラックスさせることが自律神経や内臓器官の機能改善につながると言われます。まず足の裏を叩き足指に手の指を入れて回転するところからスタートします。普段使われていない筋肉の伸長など続けていると柔軟性を実感することが出来る

とが出来る自信が湧いて来ます。私のことで恐縮ですが以前は些細な姿勢でも腰を痛め整形外科の先生にお世話に



なったものですが、ヨーガのおかげで腰痛は殆ど生じていません。少々身体の不調があってもヨーガが終了する頃は随分改善された心地良い状態になります。またヨーガを行っている合間に語られる先生の健康や食事などの豊富な話題も貴重な情報として正しい生活習慣に役立っています。

会員の皆さんも思い思いに日常の出来事を話し合い知らず知らず心が通う癒しの場となっているように見受けられます。日曜日は何かと用事が重なりませんが皆さんヨーガ講座を習慣化し励んでいます。

週に一度の講座ですが生活のメリハリが生まれ、ころなしに精神状態もゆったりしたものになり先生をはじめ会員の皆さんに生活態度や心構えなど人生を教えて貰っているように感謝しているところです。

今、病気になる身体づくりや脳活などの認知症予防が言われていますが、長い歴史を持つヨーガは心身一如の揺らぐことのない健康法と思えます。

高齢化社会になりましたが、健康に老いることが何より求められています。それぞれ皆さんが自分に見合った楽しく充実した生活を送ることがなによりのことと思います。

PC友の会

会長 櫻井 政男

本会はパソコンの普及に伴い、新たな趣味としてパソコン入門初期の技術を習得し、楽しさと便利さを日常生活に役立てようとする中高年で、平成二十一年三月に結成されま

した。松崎正代先生のご指導のもとで現在十二名が各二時間の講習を月二回受講しています。本会の特徴は、前回の復習に始まり先生の懇切丁寧な個別対応と会員同志の助け合いにより、スローテンポではありませんが全員が落ちこぼれること無く着実に習得出来ることでもあります。

昨年の主な講習内容としては①ワードソフトによる各種機能を利用した能率的な文章作成法②エクセルソフトによる明細項目等の注記挿入や集計機能を利用した出納帳作成法③はがき宛名ウィザード機能を利用した各種書状用住所録の作成法④はがき文面ウィザード機能を利用した暑中お見舞い状の作成法⑤各種書状、文章等へのイラスト、略地図などの挿入法⑥上半部にイラスト配置した各月カレンダーの効率的な作成法⑦DVD収録の各種イラストを貼付ける年賀状の作成法⑧DVDおよびデジタルカメラ映像の入力方法及び挿入、貼付け法等今年はもう一段のレベルアップにも挑戦し、日常生活に役立つ新たなパソコン技術の習得に努めようと計画しております。

学校ICT化推進により私共の子供や孫とのパソコン技術に関するレベル格差は認めざるを得ませんが、会員一同もう一度脳の活性化を兼ねて何とか後追いでレベルアップしようとして頑張っております。

ICT技術の目覚ましい発展と共にスマートフォン、タブレット型端末などの新しい機器に対する拒絶反応を本同好会活動を通じて払拭出来ればと思えます。

昨年の暮れには忘年会を兼ねた会食会を実施し、会員相互の親睦を深めることが出来ました。今年も会員一同が協力しあって楽しく活動し、

パソコン技術向上に励んでいきたいと思えます。

これからパソコンを始めたい方、興味をお持ちの方のご入会をお勧めします。お子様の古いパソコンでも受講可能です。

【連絡先：〇二九（八二二）一一九〇】

囲碁同好会「亀ノ碁会」

八島 茂夫

「亀ノ碁会」が発足したのは平成七年五月のことでした。一中地区公民館で、初心者向けに囲碁講座が開催されたのですが、その終了後、アフターケアとして受講者有志により本同好会が始まりました。以来二十一年間の永きに亘り宮々として継続し、現在に至っているのです。初心者向け講座を出発点としているため、腕を磨いて強くなろうというよりは、碁仲間が親しく碁盤を囲んで余暇を楽しもうという雰囲気強い、こじんまりとした同好会です。

「亀ノ碁会」の名称については、記録が残っていないので想像に頼るしかありませんが、「亀城」の一字を冠したものと考えられます。囲碁講座から発足したことから、「亀の子」に準（なぞら）え、まだ幼い未熟者のへぼ碁打ちの会と自嘲的に名付けたのかもしれない。また歩みの鈍く長寿の亀のことですから、碁力の進歩は遅くても、未永くじつくりと碁盤を囲みたいという願望が込められているようにも思えます。「名は体を表す」にぴつたりと適（かな）な（こ）っているのではないのでしょうか。

会は毎週日曜日の午後開催しており、年会費は、おおむね公民館使用料相当の千二百円です。現在の会員数は女性二人を含め二十五人で、全

員高齢者です。中級・初級者が大多数で、少数の有段者も所属しています。中級者の中には上達に意欲的な打ち手もいますが、教育（今日行くところがあ）る、教養（今日用事がある）対策で会員になっていく囲碁愛好者も多いようです。和やかな家庭的な雰囲気の特徴で、長続きの理由となっているといえるのではないのでしょうか。入会は随時受け付けていますので、「教育」「教養」問題に悩むへぼ碁打ちの方は、安心して一度開催日の日曜午後に覗いて見て下さい。

夏と冬、年二回囲碁大会を開催しています。対局の組み合わせを工夫し、上級者、中級者用に優勝・準優勝、五位までの入賞、また初級者用にブービー賞を用意し、棋力に応じてそれぞれ最後まで楽しめるよう配慮しています。その他参加者全員に参加賞を授与しています。

大会の成績により段級位を調整しています。過去二回の大会成績に依り昇級段しますが、負けが込んだ場合は、本人の意向により降格できます。それにより棋力が落ちてもハンディを調整して、歳をとつてもいつでも囲碁が楽しめるのが本会の特徴です。

「健康太極拳」へ美鈴会

代表 古森 貞弘

「健康太極拳」は正式には楊名時太極拳と申します。土浦市でも各公民館には、必ずこの同好会があり、全国的にも100万の会員数を誇る太極拳です。初代鈴木まさ師範が、新しく開館した「一中公民館」の同好会として「健康太極拳」を始め、二十四年目になります。

土浦が茨城楊名時太極拳の草分けとのこと。また「美鈴会」が公民館太極拳同好会の草分けの一つとか。

「美鈴会」とは実に軽やかな命名ですね。鈴木先生の「鈴」の一字を頂いたものです。先生の「張りのある」レッスンを慕って、会員は次第に増え一時は40名を超えたと聞いております。先生は米寿を前にして突然体調を崩され、帰らぬ人となりました。「健康太極拳」を繰り返し続けることから自然治癒力を高め、「元氣」の鏡だったと思います。

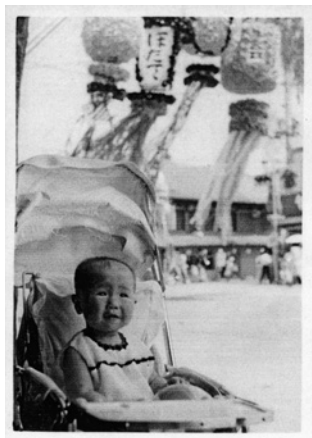
当初からの会員さんも5〜6名おりますが、二十四年の間に心や身体バランスを整え、その「健康」な姿は演舞を楽しんでいるようです。私も五〜六年間、手ほどきをいただきました。初心者にも明日の演舞に希望をつなげる的確な導きでした。

そのように伝統ある一中公民館の太極拳同好会ですから二十四年目の現在も鈴木先生の意を継いで、楊名時太極拳の「真髄」を丁寧に教授くださいます。

つぎに少し詳しく紹介します。「美鈴会」は静かな雰囲気大切に練習に集中しています。

まず月例会は月4回の午前中に、「練功十八法」「立禅」「甩手」（スワイショウ）「八段錦」「太極拳二十四式」。休憩、部分稽古のあと「二十四式」「立禅」





むかしのお祭り
 中央一丁目 保立 成彦
 むかしのお祭りといってもいろいろなお祭りがありました。
 二月は節分でいろんな神社で豆まきがあり、わたしの近所でも琴平神社やお不動様も豆まきをやります。
 四月はさくら祭りがありました。店の前の道路も歩行者天国になりますごくにぎやかでした。
 五月は、こども祭りがありました。

みんなの広場

「甩手」「終わりの挨拶」となります。そして「揚名時太極拳」は、手のひらに卵を入れてもつぶれない程度にふんわりと、また腰の高さを一定にして、ゆったりと演舞しましょう。また呼吸に意識を持ちましょうと、奥義を教えてくださいました。
 静かな雰囲気の中、静かな気持ちになること。初めのうちは分かりにくいところがあるかもしれませんが、義務感からするのでなく、楽しみとして続けていくうちに、なぜか体全体、心全体が楽しくなつてきますよ。そのように、奥深い魅力がゆったりと教えてくれます。
 それが私たち生徒の安心です。

亀城公園のプールでは、うなぎ？どじょう？、のつかみ取りや、子供釣り大会などもやっています。
 それとわたしの小さい頃、竹とんぼ作りなどを教えてましたね。
 七月は、八坂神社の祇園祭ですね。当番の時は笠ぞろいを入れて四日間、山車を引いてました。
 そのころの子供は鼻すじに白いおしろいをぬって大人は花笠をかぶって出てました。
 祭りの当番ではない時には、子供のお神輿や、ドンドンカッカといって、小さい屋台に大きい太鼓を乗せて、それをドンドンカッカと鳴らしながら町内をまわりました。
 八月は、わたしが子供の頃番すきだった七夕まつりですね。
 駅前からずーっと駅前通りを太い竹に吊るされたたくさん飾りが本当に見事でした。
 今思うと、仙台や平塚の七夕かざりも凄いいけど土浦の飾りもほんとうに凄いいと思います。
 ただわたしがそのころ好きだったのが、京成百貨店や小網屋のアーケードの上でウルトラマンショーや仮面ライダーショーがすごく好きでした。
 最後に十月といえば土浦全国花火競技大会ですね。
 わたしが小さいころはいつも家の物干し（むかし屋根の上にあった）で見えてました。
 土浦の花火が凄いいと思ったのが高校の時ですね。
 わたしは高校は水戸の方の高校に行っていました。
 その時友達達が千波湖の花火すごいから見に行こうと誘われて行きました。
 その時、千波湖の花火も良かった

のですが、土浦の花火はもつと凄いとその時感じました。

キララで踊って国際交流

虫掛 柴沼 恭子

毎年ユネスコの日本語教室やJICAに来ていた外国の人達とともに、国際交流会はキララ祭りのパレードに参加しています。
 当日三時に集合して、皆そろいの浴衣に着替えます。男女別々の部屋が用意されており、着付けの係の人達もあらかじめお願いしてあり、来た順に次々に着付けてもらいます。初めて着物（浴衣）を着て嬉しそうに写真を撮り合う外国の人達。そして慣れない足さばきで踊りの練習をするのですが、着物より草履で歩くことに慣れなくて、途中で足の痛みから靴に替えた人もいました。



振り付けは毎年フィリピン人の女性が考えて指導してくれています。皆でインスタントに振り付けを覚え、団扇を持って曲に合わせてちゃんと練習。途中で軽食をとり、最後の準備を整えたらよいよ本番。公民館から亀城公園をぬけ、出発地点に並びます。
 さあさ、みんななかっパカッパブラブラどじょうはドドンがドンドンです。

芽吹き

桜町四丁目 横山 光栄

「食事どうしてるの」「いやしと」ピーマン炒めを作った「幼い頃から野菜嫌いの彼との電話である。東京の大学に入学して、下宿生活をしてみたいと言う孫の希望に、上げ膳据え膳の十八年を過ごして来た家族の心配は大きかったが、そんな心配をよそに、絶対に食さなかつたピーマンを、自ら調理していることに驚かされた。
 もやしもピーマンも、安価でビタミンも豊富な野菜である。
 戦後の混乱期にその時代を迎えた私は、東京での勉学の望みを、諦めざるを得なかつた。また、若くして主人に逝かれた私は、二人の男の子にも下宿を許すことができず、心残りであった。

いそいそと探した下宿先は、キャンパスに近く、駅や繁華街からも近く便利そうな場所にあった。その路地は、生垣も多く、桜を初め牡丹や雪柳などが、それぞれの庭から芽吹き初め、閑静な佇まいの家並が続ぎ、手入れの行き届いた、大家さんの庭はその人柄も見えるようであった。
 入学式のその日は、生憎の雨であつたが、駅からキャンパスまでの、百本を越す銀杏並木も、新入生のそれに相応しく、枝先の芽が、ほんのりと、薄緑に彩づき初めたのが印象的であつた。
 離れてゆくことに、一抹の不安や寂しさもあるが、成長してゆく姿もまた、頼もしいものである。

家々の芽吹き照りそふ下宿かな

本花

困りごとの相談、 お寄せください。



社会福祉協議会中央支部 須藤 美穂

一中地区公民館には、社会福祉協議会（通称 社協）中央支部があり、福祉の総合相談窓口を設置し、常駐の相談員「地域ケアコーディネーター」を配置しています。そこでは、子どもから高齢者まで幅広い方々の地域の相談を迅速に対応できるよう関係機関と連携し、行っています。また、地区長さんや民生委員児童委員さんをはじめとした住民の皆さんの支援と協力により、「誰もが安心して暮らせるまちづくり」を進めています。

寄せられる相談の中には、福祉サービス（通称 福祉サービス）の相談や認知症、ひきこもり、障害がある方に対して支援についての相談、生活困窮者への支援についての相談があります。また、地域での困りごとについても、専門機関と連携し、対応しています。

また、高齢化率が高まり、ひとり暮らしの高齢者が増加しております。ひとりでの不安や、家族の不安を解消するために交流や安否確認のための事業も実施しております。

社協中央支部では、地域に根ざした活動を今後も展開していきたいと思っておりますので、皆様方の声を親身に受け止め、よりよい地域づくりを進めていきますので、今後も皆様のご理解とご協力をいただきたいと思います。

ご家族やご近所の困りごと、心配事がありましたら、遠慮なくご相談下さい。お待ちしております。

相談受付時間

火曜日～日曜日（祝祭日休み）
午前八時三〇分～午後五時一五分

短歌・俳句

降り止まぬ雨に無聊の休日

ひとり観てゐる映画「哀愁」

瀬古沢和子

これの世を彼の世へ渡る不帰の道

見えざるものを手さぐりており

荒木富美子

ふくふくとお多福南天娘の

庭のえくぼになれと植えてやりたり

井上 寛江

風に散り風なきに散る山茶花の

花のいのちの紅はかなしき

金丸 玉貴

独りにはあまるぼた餅ひたむきに

亡きひと憶い銘を練りあぐ

桜井 雅江

桜川光の水脈が煌めいて

飛び立つ前の千羽の鶴か

齊藤 順子

からからと乾いた音をたてながら

セピアな街を思い出が舞う

桑田今日子

さわさわと金色の穂のふれる音

夕立ちにうたれて佇む迷い犬

虫掛 柴沼 恭子

とくろ俳句会

お隣のカレーの匂ふ夏の庭

荒木小夜子

風鈴の音色悲しや長崎忌

田口よし子

塀越しのくちなしの香の濃かりけり

深谷 由子

カンテラの足元照らす泥鰯打つ

矢野 澄枝

童心に返り線香花火かな

矢野惣四郎

手のひらで流れる汗をふく幼女

若松 明子

ラジオから落語ききつつ心天

藤川 祐子

編集後記

皆さまの積極的な投稿により豊富な内容で発行することが出来ました。また、本号から「読みやすい広報紙」を目指して編集委員一同編集に努めました。

なお、広報紙「亀城」に関しましてご意見、ご要望等ございましたら、何なりと一中地区公民館事務局までご連絡下さい。今後の発行に参考とさせていただきます。

（本号の編集担当者）

新井 幸男／田中久美子／岡部 恒文
犬山 京子／進士 武之／横山 光栄
桜井 昌子／小野村一博